



JARLクラブ登録番号 10-4-68 ↓ replace [(a)] with [@]
 発行 JA8AJE 笠原 勝 (kcj-p(a)kcj-cw.com)
 編集 JH3HGI 吉村 豊樹 (thekey(a)kcj-cw.com)
 印刷 JG1BAH 菅井 耕二
 レポート管理 JR3KQJ 中島 昌己 (kcj-rpt(a)kcj-cw.com)
 会報発送管理 JH3EZV 勝本 健
 会員部 JA5CUX 生越 重章 (kcj-mem(a)kcj-cw.com)
 会 計 JA1COP 佐々木広武
 郵便振替口座 00860-1-13444 名義: 全国CW同好会
 KCJホームページ <http://www.kcj-cw.com>

【本紙カラーPDF版ダウンロードのお知らせ】

本紙（ザ・キー ハムフェア特別号）のカラーPDF版を KCJ-WEB にアップロードしております。ご自由にダウンロードしていただけます。（入会申込書もあります）

以下の URL にアクセスして、「日本語ページ」の左側メニューにある『会報「ザ・キー」2010 年ハムフェア特別号&入会申込書ダウンロード』をクリックしてください。

<http://www.kcj-cw.com/>

ハムフェア 2010 出展

全国 CW 同好会(KCJ)のブースにおいていただきありがとうございます。KCJ は、ハムフェアにおいて CW 愛好者の方に集いの場を提供し、CW の発展に貢献できればと思っています。ひとりでも多くの方に、私たちの活動に関心をお持ちいただき、一緒に活動していただければ幸いです。**個人局で CW 免許を所有していれば入会可能**です。**年齢制限はありません**。また、入会申込にあたり、**会員の推薦は一切不要**です。入会に関するご質問は以下でもお受けしておりますので、お気軽にお問合せ下さい。

会員部担当 JA5CUX (kcj-mem(a)kcj-cw.com)
 (「(a)」を「@」に置き換えてください)

にポイントが付きません。

したがって、たとえ1局でもコンテスト交信をされましたら、ぜひログの提出をお願い致します。チェックログとしていただいても結構です。よろしくお願い致します。

コンテスト担当 JA8AJE (ja8aje(a)jarl.com)

コンテストドナー

KCJ は、CW の発展に貢献することを目標のひとつとしており、JARL 主催のコンテスト (CW 部門) にドネーションをしています。

2009年の「第50回All Asian DX Contest」では RX9AM局にドナー盾(写真)が贈られました。



第31回KCJコンテスト

今年もたくさんの局のご参加をいただき、ありがとうございました。コンテストログの提出締切日は、9月15日(水)(消印有効)です。

ご存知と思いますが、KCJでは提出いただいたログを全て電子データ化して各データを突き合わせします。その結果、互いに一致した交信にポイントを与えるという方式を採っております。

たとえば、A局がB局とナンバー交換してログを提出されても、B局からのログ提出がなければA局

会員からの投稿記事

【雑記】

JE8RKV 太田富士子 (#335)

無線を長いこと QRT している私が、特別号に出稿するなど、図々しいですが、どうぞお許し下さい。

私の QTH は、北海道上磯郡木古内町ですが、自慢できることといえば、自然がいっぱいで目の前の海から採れるホタテ貝をはじめとした「魚介類」、おいしい牧草を食べて育った「函館和牛」などおいしいものがたくさんあることでしょうか。

今、町の話題はもっぱら、2015 年開業予定の北海道新幹線のことです。北の玄関口になるのが木古内町です。町作りをどうするかと議論の真っ最中です。

函館では、7 月 29 日に、140 年の時を経て「箱館奉行所」が復元されました。箱館奉行所は、幕末の開港にともない、蝦夷地の統治、警備、防衛のため、江戸幕府が設置した役所です。五稜郭はその外郭施設として、元治元年、1864 年に築造されたものです。

現在、国特別史跡となっている五稜郭は、旧幕府軍を脱走した榎本武揚や元新撰組副長、土方歳三らが夢見た「蝦夷共和国」の本拠地として知られています。

しかし、箱館戦争で激しく攻撃を受けたため、明治 4 年(1871 年)に開拓史により解体されてしまいました。

以来、五稜郭は大正時代から公園となり、市民の憩いの場、私が学生時代はデートの場所として解放されてきました。

JARL 渡島・桧山支部では、7 月 17 日から 8 月 1 日まで「箱館奉行所復元記念特別局 8J8BU」を運用し、最終日には五稜郭公園入り口で移動運用も行いました。

ほかにも五稜郭では、毎年夏に、五稜郭の堀や土手を利用した、市民創作の「野外劇・五稜星の夢(ほしのゆめ)」を行い、それもすでに 23 回目を数えています。

函館を含む道南地域は、北海道の中では早くから和人が住んでいた地域のため、北海道では唯一、「最北の城下町」でもあります。

昆布で有名な函館市南茅部地区では、縄文遺跡から「中空土偶」が発見され、国宝に指定されました。

知内町は演歌歌手の北島三郎さんの出身地であり、800 年前に甲斐の国から砂金を求めてやってきた人々に移り住んだ土地でもあります。

また、横綱千代の富士(現・九重親方)の故郷、福島町は、江戸時代に隠れキリシタンを弾圧した処刑場が、今も鎮魂の地として毎年、ミサが行われています。

無線と全く関係のないことを長々と書いてしまいました。

私、無線はしばし休暇を取っていますが、やめるつもりはありません。なぜなら無線は私の大切な趣味の一つだからです。もちろん、KCJ の会員も除名にならない限り続けたいと考えています。

KCJ の将来はあまり明るくはないのですが、これは「時代の流れ」です。言葉を換えれば、通信手段がアマ無線から携帯電話に変わっただけだと思っています。第一管区海上保安部の無線室におじゃましたことがあります。無線のプロでさえ CW は実際にやったことがなく、私があこがれていた通信士とは少し違ったものでした。携帯電話と同じように、好きな手段で、好きな人と、気の合う人と交流を図る、KCJ もこれでいいんじゃないかなあ、と思っています。

最後になりましたが、南北海道、いいところ、ビールは旨いし、肴もいい「一度来てみればいいしょ」。



【写真】 140 年の時を超えて雨の日のオープンとなった「箱館奉行所」

【縦振電鍵の魅力】

J07EGJ/JA1BAS 坂田宏記 (#362)

現在 CW の運用をされている方のほとんどはパドルと呼ばれる長点と短点を別々の接点で打鍵する複式の電鍵をお使いだろうと思います。現在市販されているリグには必ずと言っていいほどエレクトロニック・キーヤーが内蔵されており、打鍵される信号の正確さや速さ、疲労感といった大部分の面でパドルは縦振りのストレート・キーに勝っています。

ではなぜ今時縦振りなのかと問われますと、これはやはり「愛着」の一語に尽きます。私自身かつて電信

級の国家試験を受験すべく練習したのも縦振電鍵ですし、当時の OM 達からはこぞって電信の入門には縦振りをマスターすべしと指導されたものでした。当時の無線機もキーヤーが内蔵されていないものがほとんどで、エレキーを使うにはある程度の投資が必要でした。今では通常の CW の運用で縦振電鍵を使うことは無くなりましたが、縦振電鍵で CW 入門した私にとっては、今でも忘れがたい道具であることに変わりはありません。

また最近では縦振電鍵で参加するコンテストもあり、その個性的な OM 達の信号を耳にする機会も増えてきました。やはり私だけでなく、まだまだストレート・キーに愛着を感じている同好の士が多いことを感じさせます。

縦振電鍵はキー・ダウンすることにより回路が開き、電鍵のパネの力の反動で接点が離れることにより回路が閉じ、その組み合わせで一つ一つの信号が作りだされるという単純な仕組みです。信号の速さも電鍵を操作する人の動作のスピードに比例して増減します。これはモールス符号を知らない人にとっても電鍵に触れたときからその動作原理を体得することができることからみても、電鍵の中で最も原始的で人の本能になじみやすいものだと思います。そういう意味でストレート・キーは数ある電鍵の種類の中で、体の一部として感じ、自分の分身として意識することができる道具であるということが言えるのではないのでしょうか。

私はいわゆる電鍵のコレクターではありません（と自分では思っています）。今所有している電鍵達は求めるに応じて自然と（笑）自分のところに集まってきたものばかりです。ストレート・キーに愛着を感じ出すと、やはり評判のいい電鍵は使ってみたくなり、道具としての美しさなどにも魅力を感じます。新品で購入することもあります。特に最近ではネットオークションで落札することもあります。ただしあまりコレクターズ・アイテム的なものには手を出しません。安価で汚れたままの姿でオークションに出されている電鍵を目にすると、どうしても引き取ってあげて、きれいに掃除して整備してあげたくなり、たまたま落札することがあります。HI



どの電鍵がベストワンかと問われると、ただ1点を選びだすことは私には不可能です。使いやすさから自然と一番使う頻度の高い電鍵はありますが、どの電鍵も個性があり、それぞれに魅力を感じます。縦振りのコンテストでも意識して4～5種類の電鍵を使っています。使う頻度の高いものとしてはハイモンド製のHK-807、スウェーデン・キー、JRC製のKY-3Aといったところでしょうか。HK-807はハードヒッターである自分の癖にあった最も疲労感が少ない電鍵です。スウェーデン・キーは一度CQ誌にも感想

を書かせていただいたことがあります。その優しい打鍵感はQRPでのんびりと運用するときに使いたくなる電鍵です。KY-3Aは評判の高い電鍵であり説明の必要はないかと思いますが、私の所有しているものは、前オーナーによりテーパーピン部分が改造してあり、低温になったときに打ち辛くなるテーパーピン構造の弱点が改善されているいわば寒冷地仕様となっていて、極寒環境？でも気持ちよく打鍵できます。また最近はいわゆる通信型といわれる木製の電鍵も好んで使っています。これは私がまだ電鍵を持っていない入門時代に、ローカルのOMから国家試験用にと借用させていただいて練習していたものと同型で、懐かしくなって最近入手したのですが、その素朴な打ち心地はとてきめよく気持ちのよいものです。ただし、打鍵時の音が木製のためよく響くので家人からはひんしゅくを買っています。HI

皆さんもほこりをかぶっている可哀想な縦振電鍵がありましたら、入門時代を思い起こして使ってみてあげてはいかがでしょうか。単純な動作であるが故になかなかきれいな信号を奏でることのできない難しさを再認識し、きっと他人に優しいCWER魂をあらためて思い起こさせてくれるのではないのでしょうか。

[遙かなる『道の駅』]

JR3XEX 伊達寿夫 (#118)

2010年5月22日(土)午後3時、巨大な架け橋「明石海峡大橋」の淡路側直下の静かな波打ち際に私はいた。静かな海岸から糸を垂れる釣り人が数人。沖合にはおもちゃのような船の往来。下り坂に向かう天候で、対岸の明石市方面はもう霞んでいる。うろこをくねらせながら雲の中に潜り込んでいく巨龍を思わせる。ときたま「ガーン、ガーン」と不気味な轟音が天から降ってくるようだ。道の駅兵庫14番「あわじ」。ひとしおの感慨を持って立ち尽くしていた。



2008年

思えば、2008年5月18日(日)兵庫県豊岡市日高町兵庫5番「神鍋高原」からスタートしたJR3XEX道の駅QRVラリー。居住する京都府はすでに完了したので、お隣の兵庫県を目指した。ご存知この県は近畿最大の面積を持ち、日本海から太平洋(瀬戸内海)淡路島を含み、道の駅は30ヶ所。JR3KQJを始めKCJメンバーも多い。当初、1日に2ヶ所を予定していたので、早々に蘇武トンネルを越えて美方郡香美町兵庫6番「村岡ファームガーデン」日本一の但馬牛焼肉のにおいっぱいの「道の駅」だった。

その後、一週間ごとに同一方面、兵庫20番「あゆの里矢田川」、兵庫13番「ハチ北」、朝来市兵庫3番「あさご」1エリアのOMのリクエストにお応えしてのQRV。5月31日で春の移動は終了。なにせ車の中は暑い・・・日帰りに徹しているのでどうしても時間的に制限される。

10月4日(土)秋の移動開始。兵庫29番の「ようか但馬蔵」。この時点で最新の道の駅。大きな駐車場にきれいな建物、特筆すべきは「温泉の足湯」だ。

11月3日(祝)兵庫8番「但馬楽座」、11月9日(日)兵庫7番「やぶ」。ここまで国道9号線沿線の各駅は、自宅から1時間程度なので気楽に来れる。

11月15日(土)抜けるような青空の秋の一日。朝来市兵庫28番「但馬のまほろば」。高速道路のサービスエリアにあるきらきらと輝くような建物。晩秋の観光客でいっぱいだった。大きな駐車場はなんの遠慮もなくQRVできる。北近畿豊岡道を一路、丹波市へ。兵庫12番「あおがき」。日もだいぶ傾き始めたが、行楽帰りの車でいっぱいの駐車場に場所探しが大変。帰りに走った直線道路のイチョウ並木が黄金色に輝き、真っ青な空に映え秋の終わりを告げていた。



2009年

2009年3月7日(土)この冬は雪も少なく、春らしくなってきたので移動開始。多可郡多可町、兵庫11番11番「R427かみ」。播州峠を南に越えると加古川の源流。V字に切れ込んだ道をひたすら下る。初めて走る道にナビが心強い。こんな山の中で電波は飛ぶのか?でも杞憂だった。HFはこうだから面白い。珍なのか呼ばれ続けた。レジのお嬢さんが美人なのは、仲間のJA3***から聞いていた。後日、携帯で「お嬢さんと握手してきた」と言っていたら、焦っていた・・・



3月15日(日)朝来市兵庫18番「フレッシュあさご」、29日(日)丹波市兵庫27番「丹波おばあちゃんの里」、4月に入り18日(土)三木市兵庫15番「みき」、西脇市兵庫24番「北はりまエコミュージアム」。この日は、ローカル局と2人で新緑の播磨路へ。彼、JR3***は3アマでCWもできるのだがもっぱら観光。ツツジが満開の「みき」。彼は趣味の植木用ハサミを買っていた。西脇では、久々に3.5メガQRV。17時ころまでQRV、彼の運転で帰宅したのは暗くなってからだった。

29日(祝)神戸市北区兵庫26番「淡河」(おうご)。ここも1エリアOMのリクエスト。どんどん自宅から遠くなる。狭い上に斜面の駐車場からは早々に退散、加東市兵庫21番「とうじょう」へ向かった。新緑の中ナビ任せ、ゆるやかな起伏が続く。中国道吉川インター出入りにあり、広い広い駐車場で、10メ



ガを快調に飛ばしていると突然の来客。「電信ですか？よく飛びますか？」「はあ、まあまあ・・・」「私もアンテナの試験にと思って、今来たんですけど」「・・・」「一度これ使ってみませんか？」「えっ？はあ・・・」釣竿の先にコイルを巻いた全長4m以上はあろうか、かなりよくできたホイップだった。「どうですか？」「うへん、さすが長いだけよく聞こえよく飛びますね」「そうでしょう」。彼は満足そうであった。コンディションが抜群によかったのだからお世辞も言っていた。コールを訊くと JA3***とのこと、CWでの私の交信実績はなかった。何度も道の駅に来ているが、バッティングしたのは初めてだ。日が長くなり、高速道路の近くなので結構遅くまで楽しめた。

5月9日（土）宍粟市兵庫1番「はが」、兵庫9番「みなみ波賀」兵庫県の中西部。R9をひたすら西へ、養父市大屋町から「若杉峠」を越える。ものすごい峠だ。下りたところがR29、姫路から鳥取へ抜ける幹線道路。右へとれば天下の険「戸倉峠」へつづく。

左折して揖保川の源流を南へ下る。途中「音水湖」というきれいな名前のダム湖がある。新緑のV字谷のど真ん中に1番があった。だれもいないかと思うほど静かな道の駅。R29も中国道から鳥取道が現在の主流らしい。緑と水色に染まるような1日だった。

9月22日（祝）川辺郡猪名川町兵庫22番「いながわ」。中国道丹南篠山から一般道を南下。文字通り猪名川に沿って下ると連休でいっぱい道の駅。ガードマンの指示で駐車場へ入るのに30分かかった。

10月31日（土）宍粟市兵庫17番「播磨いちのみや」、兵庫2番「やまざき」。先月のR29を南から北上する。だんだん自宅からは遠くなってきた。R29には合計4つもあり、それが全部宍粟市である。JCC2728も打ち飽きた。Hi

11月7日（土）さらに兵庫県の最西部へ。みなさん、ここまで読んでいただいて、「よくもまあ、懲りずに・・・」とお思いでしょう。我ながら「はまってしまった道の駅行脚」、家庭でもプーイングも起きかけている。今回は家内同乗にてのQRV。またまた、宍粟市兵庫4番「ちくさ」、佐用郡佐用町兵庫19番「宿場町ひらふく」。紅葉狩りとか適当な理由をつけて先日の「若杉峠」R29を南下、更に西へひと山越え千種川中流に駅はあった。秋も深まり、静かな「ちくさ」は人影もまばら。もひとつ西へ、8月10日未明大雨で大きな被害を出した佐用町へ入る。山々の木々がなぎ倒され、河川敷はまだ泥のまま、田も畑もあとかたもない。平福は因幡街道の宿場町で土蔵がたくさんある古い町並みだ。家内サービスなので、さっと流し帰途につく。

買物好きの家内は、野菜をしこたま買って車内はいっぱい。中国道佐用から福崎JCT、播但道を北上と思いきや「あれ？夕日が右手に見える。ってことは南に向かっている」太陽の位置で方角を知るとは私は原始人か・・・結局、姫路近くまで南下してUターン。播但道では「フレッシュあさご」で近所へのお土産お買いもの。北近畿豊岡道「但馬のまほろば」では明日のパン購入。「おとうさん、ここのスタンプもう押してある？」「とくに・・・」もう短い秋の日とはとっぷり暮れてしまった。「帰り道にはまだ道の駅あるよ」。R9の「農匠の郷やくの」、わが町の「シルクのまち かや」。「もう買うものない」と言いながら「さっきの所の方が安かった」だって。

11月23日（祝）いよいよ兵庫道の駅も大詰め。南西部に残った2ヶ所を、今日もJR3***と珍道中に出かける。相生市兵庫25番「あいおい白龍城」、たつの市兵庫10番「しんぐう」。絶好の好天だ。何度走ったか、北近畿豊岡道の山東入口から播但道、姫路東から山陽道。相生は造船の町、対岸にIHIの巨大クレーンが見える。白龍城は「ペーろん城」と読むらしい。香港か台湾を思わせるきらびやかな建物。駐車場は秋の産業祭か、ものすごい人出と数あるテント。イカ焼きや歌手のイベントなどごった返していた。数ある駅の中、私的には印象深い場所だった。海岸で釣りのおっちゃんに、「何がつれます？」「いやあ、駄目ですね」と言いながら結構楽しそう。「ところでおたく達は何しに相生へ？」「釣りに・・・」「どこでやってるの？」「あそこ」といってモーターホイップを指さし「空から降ってくるものを釣ってる」「・・・？」

一路海岸通りを東へと向かう。曲がりくねった道だが、右手にきらきら輝く瀬戸内の海を眺め、遠く小豆



島、近くに家島群島を見て快適に飛ばす。途中、既に新道の駅として登録はされたがまだ工事中の、兵庫 30 番「みつ」があった。南向きの高台にあり完成したらいち早く来たい。大きな揖保川の岸辺を北上「しんぐう」へ到着。こじんまりした駅だった。遅い昼食をとって、ちょこっとやって 15 時 QRT。北上して中国道山崎からいつものルートで帰途につく。秋の日はつるべ落とし、運転手交代してもらって 18 時帰着。これで今年の兵庫は終了。

2010 年

2010 年 3 月 14 日（日）いよいよあと 4 つを残すのみ 3 つは淡路島だから最終日に行くとして、「みつ」が 1 つだけもったいない。てなわけでもたしても家内の出番となるわけだ。世界遺産姫路城が平成の大修理に入るといって見たい、と。それでは、ということで二人して出かけ、播但道香寺で家内を下ろし JR で姫路へ入れと指示。私は山陽道から相生経由で「みつ」へ。案の定、美しい海岸線は行楽客で大渋滞。駐車場へガードマンの誘導でようやく入場。ところが、正面玄関のまん前、ガードマンのおっちゃんに「あっちの端っぼのほうあかんか？」

「勘弁してよ、今日はこんな状況なんで・・・」
汗をふきふき頑張っていたので我慢することにした。真新しい「みつ」はご覧のように、

チベットのポタラ宮がエーゲ海の崖の上にあるような（行ったことないけど）たたずまい。目の前の白砂の浜は子供連れが楽しそうに遊んでいる。ちらし寿司のお昼をパラソルの下でいただいて、今日は家にいる JR3*** にテレビ電話。本当に一人でいるのはもったいないくらいの景色だった。14 時、110 QSO にて QRT。家内を迎えに姫路城へ向かった。

5 月 22 日（土）淡路島へ。JR3*** と一緒に朝 6 時半出発梅雨前の好天の一日、おっさん二人の珍道中もいよいよ佳境に達するのだ。舞鶴道、中国道、山陽道、淡路道をノンストップで飛ばす。6 月から土・日 1000 円が無くなるとのことでラストチャンスだ。2 時間で明石海峡大橋を渡り、淡路 SA へ 8 時 30 分着。ちょっと休憩。今日は、南あわじ市兵庫 16 番「うずしお」、淡路市兵庫 23 番「東浦ターミナルパーク」、そしてオーラスは兵庫 14 番「あわじ」。午前 9 時 40 分「うずしお」から第一声（一信）目の前に鳴門のうず潮を眺めながらの抜群のロケーション。すぐ横は大鳴門橋、向こうに見えるは徳島県だ。高さ 50m の上をおもちやのような車が走っている。絶景の中、ハワイの様な（行ったことはある）樹林の中をしばらく歩くと小さな道の駅。どことなく南国の香りが漂い、いかにも遠くへ来たという感じだ。しかし暑い・・・ 50 QSO で名残惜しいが次へ移動。

「東浦ターミナルパーク」バスターミナルが道の駅になっていた。急ぎ 50 QSO でいよいよラストシーンへ。一般道はえらい警備が厳しい。この日は「淡路花回廊」に、皇室がお見えになっていたらしい。「あわじ」は本当に明石海峡大橋の真下にあった。臨時駐車場の矢印にそって車を入ると、大きな芝生の庭の海べりにでた。巨大つり橋を支えるワイヤーを固定するコンクリートの塊には度肝を抜かれた。QSO は快調に進む。目の前の神戸や大阪湾岸の局が強い。海のすぐそばなのだろうか？

思えばこの 3 年間、山深い地、大都会の地、海のそばの地、滴るような緑の中を、黄金に染まる田園の中を、金波銀波の渚を、日帰りで 30 ヶ所を巡ってきた。たくさんの局から呼ばれ、全国に仲間ができた。あらためてこの趣味を貫いてきて幸せに思う。いつもサポートしてくれた JA3***、移動につき合ってくれたローカル局の JR3***、家内（一応アマチュア局）そして文句も言わずに働いてくれた愛車、トランシーバ、アンテナ、エレキー諸君、ありがとう。

※ 巻頭（4 ページ）へ続く・・・



[大地震を想定した徒歩帰宅訓練に参加]

J04CAP 吉田倫子 (#401)

2009年12月19日、JARL千葉県支部の世話役さんからのご依頼を受け、「大地震を想定した徒歩帰宅訓練」の非常無線訓練に参加しました。

この訓練は大規模な地震が発生し、鉄道等の公共交通機関が止まってしまった場合、通勤・通学先や外出先から混乱なく安全に帰宅するために、県内企業や県民を対象に徒歩で長距離を移動する、千葉県主催の訓練です。JARL千葉県支部では毎年この訓練に協賛し、アマチュア無線を利用してスムーズな避難誘導や情報提供を行うための非常通信訓練を行っています。他にも、消防や自衛隊、日本赤十字社さんが支援所での炊



き出しの設置や救護活動にあたり、徒歩参加者も200名ほどが参加する大きなイベントです。私は今回で2回目の参加でした。

今回の出発点は松戸市役所で、流山市の一部を通過して柏市の県立東葛飾高校まで約13キロメートルの長いコースです。通信には430MHzのFMを使用し、千葉県庁のアマチュア局や途中のホスト局との通話のために、中継車両に見立てた車で移動し、避難者の通過状況や休憩地点での状況、さらにハンディ機を使用して最終地点での到着状況を刻々と報告するという任務でした。慣れないので、参加各局にはすっかりお手間をおかけしましたが、貴重な体験となりました。

今では、移动通信のツールは携帯電話が主流で、持っていない人がいないくらいの普及率です。私自身も携帯電話が手放せない毎日ですが、

大規模な災害時には、アマチュア無線は大変頼れる存在だと思います。日ごろ、電波を使って通信や実験を楽しんでいるアマチュア無線家は、大地震の時に人々の役に立てるような非常通信が行える技術を持っていると思います。これからもできるだけ訓練に参加し、自分自身がそのような立場にたっても慌てないようにしたいと思います。

[V63AKA運用]

JK1EBA 長谷川 晃 (#312)



6月下旬のYAP島移動運用では多くのKCJ局長からコール頂きありがとうございました。

コンディションは今一で未だ安定せず、6m & 10mでのオープンはありませんでしたが、7/10/14/18/21MHzでCW & SSBで計1650局と交信。添付のカードはビューロ経由でお送りしました。

毎回自作アンテナでのQRVを楽しんでいます。今回は椰子の木から垂らした3.8MHzトラップバーチカル(写真左下)。満潮時には、給電点が海面から1m、同軸は海中。ノイズが少なく良く飛びました。

FB DX de V63AKA

(JK1EBA/Hase)

[KCJA アワードの醍醐味]

JR3KQJ 中島昌己 (#246)

1 KCJA アワードとは

KCJA 賞(Millennium Edition)は『日本の1都道府県とCWによる交信を1点とし100点を得る』というアワードで、バンドが異なると別カウントとなり、上位ステッカーが用意されています。

私は'78年に基本クラスを取得し、それ以降上位クラスを追いかけましたので、その醍醐味をご紹介します。

2 KCJA 入門期

基本クラス100を取得した当時はまだKCJに入会していませんでした。

しかしCWを覚えてカードが集まり始めた頃で、一つのアワードとして取得しました。

'83年のKCJ入会を機に数え直した所、250で追加ステッカーをゲットしました。

当時はJR3XEX伊達さんがトップランナーで、これを目標にオールバンドQRVを始めました。

会報の『ザ・キー』にKCJAの発行状況の一覧表があり、EDのJA3MKP岐田さんが各局の進捗を面白く解説されていたので、のめり込んで行きました。

KCJAはサテライトを1バンドとしてカウントしますので、これを目的に'84年にA010へQRVを始めました。

JR3KQJ申請履歴			No1受賞者 (参考)
クラス	発行日	発行NO	
100	78.03.20	11	JF1CQH
150	-	-	JA6YE
200	-	-	JA1JKG
250	83.10.17	13	JA7GAX
300	83.11.14	11	JA3AA
350	84.08.30	10	JA3AA
400	84.12.31	3	JK1NNT(BML)
450	86.07.03	1	JR3KQJ
500	90.01.03	3	JA3AA
550	90.02.24	1	JR3KQJ
600	96.06.28	2	JA3AA
610	01.10.24	1	JR3KQJ
620	02.08.22	1	JR3KQJ
630	06.08.31	1	JR3KQJ
640	10.01.11	2	JA1BML
650	?	?	JA1BML

3 450ポイントをNo.1取得

そしてついに'86年に450ポイントをNo.1を受領できましたが、過去の会報で調べたバンド別内訳は別表の通りです。

まだ18/24MHzは開放されておらず、SATも固定局のみで30くらいで頭打ちでした。

現在のようにSATで移動サービスするという発想が無い時代でしたが、今にして思えばF0-12などの低軌道衛星はモバイルでも運用可能だったと思われます。

また1200MのCWもマキのトランスバーターでQRVを始めましたが、いきなりCQを出しても相手はおらずもっぱらFMからのQSYでした。

4 JA3AA 島さんとのデットヒート

島さんは一時トップでしたがしばらく休憩期間を経て復活され、ついに500では逆転されてしまいました。

KCJAは50MHz以上では運用地制限が無く、当時は熊本転勤中でUHFで各地から運用されました。

次の550は18/24MHz開放期で、何と申請日の2日差でNo.1となりましたが、600では大きく遅れをとりました。

私はあくまでも兵庫県内運用に拘りましたので、コンテストやSKDでU/SHFを埋めていきました。

5 ダークホース JA1BML 山田さん登場

その後KCJA(Millennium Edition)が登場して上位は細かい刻みとなり、10ポイントずつ積み上げとなりました。

ところが山田さんの猛烈な追撃が始まり、精力的にオールバンドでQRVされてサテライトでもアツと言う間にWACA/WAGAを完成されました。

そしてウルトラCはU/SHFでローカル局とモバイルを連ねて各県を走り回り、一気に650まで完成されましたが、残念ながら今年の1月に逝去されました。合掌

6 今後の目標

私はあくまでも兵庫県内運用に拘って追いかけてたいと思います。

144MHzの残りはYG、MG、KGでSSBではQSO可能ですが、山にキーを持って来る局はほとんどいません。また、SSBでグループ運用しているような場合にCWのリクエストは勇気が必要です。

430MHzの残りはAM、IT、YG、MG、FS、KM、KG、ONで、やはり日本の端っこを残しています。(HKはCFM済み)

5.6GHzは'05年からQRVを始めましたが、やっと昨年になってJ02ASQ局と1st CW QSOができました。今後何処まで行けるか分かりませんが、ライフワークとして取り組んで行きたいと思います。

皆さんもいかがでしょうか？

KCJA450と最新のバンド別内訳

申請	合計	1.9	3.5	7	10	14	18	21	24	28	50	144	430	1.2	2.4	5.6	SAT
'86年	452	47	47	47	46	47	0	47	0	47	45	26	19	4	0	0	30
'10年	641	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	44	39	27	11	3	47

[コンテスト好きのとりとめない思い]

JA8AJE 笠原 勝 (#316)

1 パイルアップ

最近のコンテストで図らずもパイルアップを受けました。一つはALL JA8の夕方、7MHz、もう一つは6&Dでの終了2時間前、50MHzでした。

パイルアップになるのは大変うれしいのですが、問題はそれに対応する技術がこちらにあるかどうかです。とにかく同じトーンで呼ばれると、キーイングの速度が違おうと、信号強度に差があろうとコピーはなかなか難しいです。従ってずれて呼んでくる、すなわちトーンが異なる局を聞くことになります。通常トーン450Hzで聞いていますが、パイルでは低いトーンが聞きやすくチェックしてみると最低トーン250Hz迄は聞けました。年取った耳で250Hzを聞くことが出来るとは思っていませんでした。フィルタのバンド巾は通常500Hzにしていますので、高い方は700Hzぐらいまで聞けるわけです。名人クラスはフィルタを1~1.5kHzに広げるそうです。したがって、もっと高いトーンすなわちかなりの周波数ずれでも聞き取るわけですが、QRMがひどくなるだろうと思えば、とてもそんなに広げる勇気はありません。

2 応答時間

ローカルコンテストでS&Pをやっていて面白いと感じるのはどんな場合か？それは、呼ぶとほとんど瞬間的に返事くれる場合です(勿論パイルなしの時です)。このような局ばかりですと、次々と呼んでQSO数を増やそうとの意欲がわきます。私が呼ばれる立場の時は、この呼ばれてから応答するまでの時間を何とか減らそうとします。かつての紙ログとメモリーキーヤーの時代では、相手のコールサインの最後の文字はログせず記憶しておき、相手がナンバーを送り始めるときにログしました。たったの一文字ですが、書いて

いると相手はその時間が長く感じるだろうと思って、そのようにしていました。たった一文字ですが、



忘れてコールの再送をお願いしたこともたびたび。一回目は相手のコールをちゃんと送っているの、おかしく思われたかもしれません。

パソコン時代である今は当然コンテスト用ソフトを使います。私は zlog 一辺倒です。失礼ながら data ファイルの保守が滞っている場合もありますが、最大の利点は相手のコールの一部をタイプインして送信、送信途中に相手コールの不足分文字をタイプインするとそれを続けて送ってくれます。つまりタイプインにかかる時間を減らし応答を早くできる点を大変気に入っています。

何故こんな事にこだわるのか？結構高速で CQ TEST を打っている局を呼んで、シーンと沈黙される、届かなかったか、他を探すかとあきらめかけた時に返事がある、これではコンテストが面白くありません。呼ぶ、すぐ返事がある、こちらもすぐナンバーを送る、終わる。これがコンテストの面白さでしょう。

3 ID

呼ばれていると QSO が終わっても ID を送出しない局を時々聞きます、特にローカルコンテストで多いように思えます。必ず QSO ごとに ID すること、これがコンテストの基本とっていましたし、今もそう思っています。その癖でしょうか、コンテスト以外でも移動等でパイルを受けると、QSO ごとに ID します。

数年前読んだ記事で、「QRPer にサービスするために ID を時々しか出さない。」とありました。「ID をしなければコールする局はだんだん減りますので、減った時点で QRP も聞き取れ QSO できるから」、と言うものでした。優しい方だなとの思いと QRPer はこの好意を有り難く受け止め QSO すればいいでしょうが、コンテストではこの考えは通じないと考えたのを覚えています。QRP は応答率が低いというそれなりの覚悟と、小電力で QSO する面白さを期待して、自分の好みでやるわけですから、むしろその困難に立ち向かうという意志を尊重し、QRO 局と同等に扱うべきではないでしょうか。

ところで ID をしない局全部がこの考えとも思えません。パイルを突破しようと長い間頑張っている局も、今その周波数を聴き始めた局も同等に楽しめるように、QSO ごとに ID をするのが基本ではないでしょうか、いえ、QSO ごとに ID してください！これがコンテスト好きの願いです。

[私と CW]

JA1COP/JA40EY 佐々木広武 (#288)

1970 年(昭和 45 年)、中学校に入学した私はすぐに無線部 JA4YFN に入部した。巨大な竹竿で高々と上げられた 40m 長ダブルドレッドアンテナから、はしごケーブルが引き込まれた部室のテーブルには、かつていい真空管式通信機がいくつか並べられていて、ヘッドホンとマイクが置いてある。そこは想像の世界にあった地球防衛軍の指令基地。それからまもなく、私はアマチュア無線の虜となった。

恩師は JA5AKF。先輩には JA4IMO、JA4KHP、JA4LWU・・・。入部してすぐの夏休みの宿題はキット VFO-1 の組み立てだ。それまで水晶しかなかった TX-88A では f ズレでの QSO はあたりまえ。どの局も CQ 後はバンド内をくまなく探して応答局を見つける。セパレートリグではそんな交信が当たり前だった。受信機は 9R-59D に手作りの CR カップラーだ。憧れのリグはもちろん、599 ラインと 400 ラインである。

同年夏休みに電話級を取得。年末に父親が月賦で購入してくれた TS-511X とエコー 8G で開局し、7MHz にて初めて個人コールを送話した。地元 2 局目の民報、岡山放送(JOOH-TV)が開局する前、沖縄はまだ KR8 だった。以来、今年で開局 40 年を迎える。中学 3 年(1972 年)には電信級を取得。ただし、当時は電信級も 10W。高校 JA4YDC に入学したあと、2 アマを取得。卒業後に和文を覚えて 1 アマを取得、その後はプロの資格を得た。

CW を本格的に始めたのはコンテストの影響が大きい。JA4YDC は当時コンテスト常勝局であったが、勝



つためには CW での交信が不可欠。記号と数字の交換はハイスピードであっても予測がつく通報であるため、聞き取り能力を上げるのには最高の練習となった。実際、CW に慣れるには、普通の CW QSO よりも先に、コンテストの交信を実践する方が効果的だ。これは持論。

高校生のころ、第1次アマチュア無線ブームが訪れた。AM-3D、TR-2200 など 50MHz と 144MHz で安価な小型 FM トランシーバが各社から発売されると、市内(当時は 3104 玉野市)のあちこちに固定 GP が出没。こんな地方でもラグチューなるものが全盛となった。そうすると急に個人のうっとうしい人間関係が勃発する。「あいつはオーバーパワーだ」「あの局がかぶせてきた」と本来の無線通信の楽しみがどんどん薄くなる。「アマチュア無線は実験だ!」このことを忘れるとこの趣味は絶対に長続きしない。

CW はそんなうっとうしい無線界の人間関係を一扫してくれる。シンプルで卓越した略号と Q 符号中心の通信。しかも万国共通で最低限だけの意思疎通が 26 文字と数字だけでできる。しかも送り方で個性、一瞬の間合いに人間性も出せる。こんなにすばらしい通信手段は他に無い。ラバースタンプ QSO も CW らしいすばらしい通信手法で、これが非難される謂れはみじんも無い。なぜなら、電波法では不要の通報を禁じている。ダラダラたわいもない内容を交わす必要は無線通信には必要ない。サヨナラを打つのに平文も不要。73 だけで十分だ。「そんなことは有線で話せ」これは昔も今も変わらない。

こんな自分も最近では同好の志を持つ仲間との交流が楽しい。全国 CW 同好会(KCJ)は 35 年の歴史ある組織であるが、入会当時は年齢制限と CW 経験年数、それに推薦人 2 名の推薦がなければ入れなかった。入会してもめったな発言はできないので、当分の間は会報をながめるだけ。主催の KCJ コンテストは、当初から全ログの突合がされるという気が遠くなるような努力がなされ、厳粛な審査が実施された。この精神は今も受け継がれ、会の内部では時に厳しい意見も噴出するが、CW を通じて秩序あるアマチュア無線界のリーダー的な存在であろうとする現われだと思う。現在は入会審査も簡略化され、未成年でも経験年数が浅くても入会できる。より広い人材が入会し、新しい形の KCJ になって継承していくことが今の KCJ には必要である。

現代は、技術的にはパソコンが、出会い的にはインターネットが、アウトドアでは携帯電話が全盛である。この趣味は、私がかつて経験したような感動を同じように若い世代に感じてもらうことはできない。

しかし、この趣味を楽しんでいる仲間が世界中にいる限り、この古くて新しい CW を長く楽しみ続けたい。そのための仲間は大切にしたいと思っている。

[投稿 1 JCC800 と次の目標]

JJ1INO/QRPP 井上洋輔 (#063)

このたび JCC800 (10MHz, CW, QRPP) No.64 と JCC800 (7MHz, CW, QRPP) No.80 を受領しました。残念ながら今回はくじ運が無く CW の特記ナンバーは付いていませんでした。

WACA にしても WAGA にしても、すでに過去 10MHz バンドで完成はしているのですが、内容の増減もあり、毎年度版を目標にかかげています。次の目標は 2010 年版の WAGA (CW, QRPP) 残り 1 郡と WAGA (10MHz, CW, QRPP) 残り 2 郡です。WACA は、MIX バンドが残り 12 市、7MHz が残り 55 市、10MHz が残り 72 市で、達成は当分先で、2011 年以降に持ち越される可能性が大きいです。全国町村賞は、2500 まであと 39 町村です。町村がこれ以上消滅しないことを祈っています。

なお、JCC MIX-BAND は 866 市 (QSL) です。

[投稿 2 昔の「就活」とその後]

JJ1INO/QRPP

朝日、網代、井上、伊藤、太田、大内、これは高校生時代の教室での席順です。高校 3 年、昭和 35 年の夏頃、すでに半数上の生徒の就職先が内定していました。しかし、私の志望した東芝小向工場と NHK の試験日は秋で、なんとも落ち着かない日々を過ごしていました。

東芝には無線の友達と高校の無線クラブの 2 年先輩が就職していました。そこで、学校の推薦状と願書を直接東芝の人事課に持って行きました。そして、友達が工場の中を案内してくれました。この時期、CQ 誌の DXCC ランキングで常時トップクラスにおられた JA1AG 黒川さんも東芝におられ、私は、当時 SWL JA1-2203 として黒川さんとも QSL 交換をしたりしておりましたが、結局はお会いすることはできませんでした。

網代は東電、太田は NEC、大内は日立に内定しました。

後ろの席の伊藤が、関東では珍しい松下 (ナショナル) に挑戦するので、お前も一緒に行かないかと誘われ、私の本命までは時間もあるので練習のつもりで気楽に挑戦することにしました。結果は上々で、二人とも合格しました。私は、就職担当の先生から、松下に決めたらどうかと言われ、思わぬ展開なが

ら先生のご指導に従いました。3ヶ月の導入教育を終了し、人事部長との面談のときに、営業には絶対行きたくないと要望し、研究部で電子計算機をやることになりました。しかし、この時なぜ無線事業部へ行きたいと言わなかったのか？全然思い出せません。もし、無線事業部配属ならば、その日から実験の手伝いくらいはできる実力を持っていたのですが。これも運命かもしれません。以降、仕事で無線機的设计をしたことは無く、無線機製作は趣味として現在まで続いています。

その後、伊藤も私も定年まで40年間勤め、無事に定年退職しました。もしこのとき伊藤が声をかけてくれなかったら、仕事も趣味の無線も今とは違うことになっていたかもしれません。

【投稿3 アースアンテナ】

JJ1IN0/QRPP

「アースアンテナ」って知っていますか？受信機のアンテナ端子を大地アースに接続するのです。それによって、AC100Vラインがアンテナとなり、電波信号が、電源トランス→シャーシ→アンテナ端子アース側→アンテナ側→大地アースと流れて受信できます。昔、並四ラジオなどで使用していました。また、同じような意味で「電灯線アンテナ」というのもあり、鉱石ラジオでよく使用しました。AC100Vラインの片側から0.001μF（耐圧250V以上）のコンデンサーを経由して鉱石ラジオのアンテナ端子に接続し、鉱石ラジオのアース端子は大地アースに接続します。AC100Vラインにはホット側とコールド側があり、ホット側は触るとびりびりとくることを体感しました。以上、いずれもACラインが空中配線である必要があります、マンションのようにコンクリート壁や金属配管の中にある場合はアンテナにはならないと思います。

チョット話は異なりますが、数年前にLWアンテナを18mと短くしたときに、どう言う分けか、10MHzの場合、グラウンドがふわふわしているような感じで不安定になりました。処置としては、電源ラインにコアを入れて高周波のアンテナ・アース系とAC電源系を絶縁しました。アース系には10MHz 1/4λのカウンタポイズを付けてアース電位を低くしているつもりですが、どうも電灯線との相性が良いようでした。

KCJ 会員短信

ハムフェアおよび総会に向けて、KCJ 会員から寄せられたメッセージ・レポートをお届けします。

（投稿は一部編集させていただきました）

◆JA1DD:以前なら KCJ の総会と聞けば北海道でも九州でも喜び勇んで参加していたのですが、現役を引退して若い人たちのエネルギーを吸収する機会もままならず。そのせいでしょうか、時間の余裕も充分あるはずなのに、空に出るのも疎かになりました。どうしてかな？！毎日、1km 泳ぐのを日課にしている体力は充分自信があるのだけれど・・・

◆JA1IE:DX 国内とも往年の Condx は夢物語ですがお空では皆の活躍ぶりが良く聞こえております。JCC800 下付されました。WAKU は 19/152 です（7月25日現在）

◆JA1COP:土日しか出てませんが、HB の CONDX が今ひとつ。6m は EU が入ってますが、強い局が多くなりさっぱり・・・。ストレスの初夏でした。

◆JA1FCY:小生、6月の初めからドック入り、オイル漏れや錆落として約1ヶ月間SK状態でした。目下リハビリトライアル中で涼しくなる頃にはまた走り回るつもり。その節はヨロシクです。暑い日々ですが皆様方におかれましては、どうかお健やかに過ごしてください。

◆JA10YB:2000年横浜総会以来欠席しており、今回は出席したいと思っておりましたが、母の体調不良により今回も残念ですが欠席となります。

◆JA1PHE:消滅市の貯金を生かして JCC800 を取得しました。抽選で No.6 をもらいラッキーでした。サテライトの JCC は現在 750WKD、JCC800 までもまだ先が長い。

◆JE1KNT:KCJA のポイントも伸びずもっぱら JCC-800 と WAKU ねらいでワッチしています。CONDX も今一で移動運用も出来ておりません。

◆JF1CQH:すっかり会費を納めるだけの会員になってしまいました。

◆JF1PPR:約10年前、青天の霹靂のごとくに現れた検診時の心電図異常は、その後の療養にも拘わらず、好転することなく、最近ペースメーカーを埋め込む仕儀となり、第一級身障者の仲間入りをすることになりました。アウトドアでの諸活動が多分に制約を受けることになり、大変残念です。

◆JG1BAH:この春3年越しの課題だった 12ch エレバグキーの組み立てに成功しました。今年中には更に10年越しの課題となっている JST/UTC 平行表示の時計作りを目標にしています。

◆JH1FET:ここのところ QRT 気味で E スポに時々 50MHz に出ています。

◆JH1HTK:ローテータがこわれてから沈滞ムードです。

◆JH1IZR:細く長くトン・ツーを楽しみたいです
ね。

◆JH1TFL:現在 QRT 中です。日常の雑事に追われ
なかなか再開できません。

◆JH1XOQ:まだまだ SSN が低いですね。Poor なア
ンテナでは DX はしばらくお預けです。

◆JI1LAT:昨年 12 月頃より、DX に目覚め、朝夕
ワッチに精を出しています。8 ヶ月で DXCC 160/85
程度出来ました(CWです)。また、5 月頃より RTTY、
PSK31 も始めました。今後ともご指導をお願いします。

◆JJ1INO:本当にコンディションが悪いですね。
QRPP にとってはきびしい限りです。JCC800(10MHz
CW QRPP)No64 および JCC800(7MHz CW QRPP)No80
を受領しました。残念ながら CW の特記 No はあり
ませんでした。くじ運が悪かったようです。

◆JN1WXW:事情があり実家の ANT を降ろすこと
になりました。ここ 10 年は 50MHz を中心に QRV
していましたが、方針変更を考え中です。

◆JQ1NGT:21MHz は CONDX が今一つなので 7MHz
で楽しんでいます。

◆JA2MYA:今年中に 10 万局 QSO をめざして頑張
ります。

◆JA20LJ:仕事の引き継ぎも順調に進みつつあ
り 65 歳でリタイアできる予定でしたが、まだ
数年伸びそうで、頭脳の働きの維持が？無線の
移動運用に励み、脳と手の訓練(zlog で運用)を
続けます。各局、固定からの QRPP(500mw)も宜し
く。

◆JG2GSY:総会に出席できず残念です。9 月中旬
の北海道は、以前仕事で訪れたことがあります
が、すべてが最高の季節でした。

◆JR2DYD:体力、気力が低下すると空のアクティ
ビティもダウン、少々寂しいです。

◆JE3GDW:通常の QSO は少し減っておりますが、
コンテストだけは出来るだけ参加しています。順
位はいつも下位から見方が見つけやすいです。
Hi「JARL NEWS」では入賞局のみの記載となり、
モチベーションが下がりました。HiHi

◆JG3SVP:コツコツと運用しまして何とか 80m も
JCC500 クリア出来たので、次は 160m と思っ
ております。ぜひ各局交信をお願いします。

◆JH3HGI:5 月下旬から 7 月上旬にかけて義母の
死去、孫の誕生と忙しく無線どころではありませ
んでした。少しずつカムバックします。

◆JR3SIJ:自己完結アンテナ電車移動への転換
も 8 分程進行中です。

◆JR3XEX:残念ながら総会に出席できません。
KCJ 発展のため新しいアイディアが出ることを期
待しています。

◆JA4TF:古希を迎え Key はすっかりご無沙汰。
フィーダーは隠元豆に占拠され、リグは埃にまみ
れ主の怠慢を嘆いている。只、来年は自動車運転
免許と無線局の再免許の年、どちらも更新の予定
だが、平文 85 字送信を誇った腕と受信能力の低
下は否めない。そろそろ返還の時かもしれません。

◆JA4TY:移動用の ANT をいろいろと Cut & try
するのも楽しいものですね。この夏の移動はチョ
ット事情があつて中止としました。また改めて九
州へのゆっくり一人移動を計画します。総会出席
できず残念ですが、各局によろしく。

◆JA4AVO:WAKU は残 13 ポイントになりました。
WACA は全部 WKD です(東京 23 区も)。

◆JA4BL0:卒寿まで後わずか、ガンバルゾー

◆JH4PCD:いろいろとお世話になっています。最
近は電波を出すのが億劫になり、情報がつかめま
せんが、何とか無理をしてでも頑張ってみよう
と思います。ホレ・ラグチューのすきな局長さん、
PCD の符号を聞かれましたら BK してください。楽
しみにしています。

◆JH4RGH:店の HP&ブログの更新が忙しくて無線
に出れません!!(山の田太平楽)

◆JA5CUX:KCJA ポイント up のために QRV してい
ますが、なかなか増えません。

◆JA6GA0:現在 7MHz にて QRV 中。

◆JH6EYK:病気のため QRV 出来なくなりました。
アンテナのメンテもできません。

◆JA7TJ:ザ・キーへ毎月 KCJ レポートを出すの
を励みに、HF-CW に毎月全日型で出ています。CW
マンの皆様のお相手を宜しく御願いたします。
BEST 73!

◆JA7WT/JN1IXJ:入会間もないのですが、言い
方は変ですが大変アツイ、血の濃いクラブのよう
に感じています。今 V052 がモービルホイップで
も OK のようなのでその準備をしているところで
す。

◆JA7AEM:6 月 14 日から 7 月 30 日(予定)まで
仙台市の整形外科で入院生活を送っています。そ
の間 ON AIR は当然 NG。Mail はもちろん KCJ-ML,
MM もまったく見られない状況となっています。毎
年移動して参加している 6 & Down(昨年は C50 で
エリア 1 位)に出られなかったのが最大の心残り
です。退院後は当分おとなしくしていなければな
りませんが、リハビリを兼ねた(?)移動運用も
徐々に始めたいと考えております。

◆JA7DCD:超多忙人生のため QRT 状態です。今
のところ回復見込みはゼロ、困ったものです。

◆JA7QLP:今年から、ぼちぼち移動運用できるよ

うになりました。また細く長くやっていきたいと思ひます。

◆JH7FQK:最近 Condx が悪く闘志がわきません。CWを忘れない程度には出ています。

◆JH7VOT:JCC アップを目標に KEY を叩く毎日です。最近はこのに加えて道の駅アワードに挑戦。もっぱら移動局ワッチオンリーです。

◆JA8LN:今夏は JAIA のボーナス局となり、頑張っております。

◆JA8BOL:只今休眠中、あと2年で開局50周年。お目覚めは多分そのころ、まだ縦振りキーの腕は健在、和文でよろしく。

◆JA8NSR:仕事が QRL ですが、時々7MHz、10MHz CWに QRV しています。皆様お相手よろしく。

◆JA8OHG:八十路を目前にして体調がいまいちです。幸い椅子に坐ってのキーを叩くにはなんとかなりますが・・・hi

◆JA8PON:留萌勤務となり留萌市とその近郷を巡りながら QRV しております。聞こえましたらお相手をよろしくお願いします。

◆JH8CBH:せたな町より細々ですが休みの日にオンエアしています。早く函館のシャックに戻る日が来ると良いなあと思ひます。

◆JH8QXL:QRT 状態です。

◆JH8WEJ:6 エリアに移動準備中(転居)10月頃より福岡県朝倉郡東峰村より新しいコールサイ

ンで運用します。

◆JA9NPS:無線から遠ざかっている日々です。カリブでニューが4つできるそうですね。また、残りが増えてしもたー！よりによってカリブ！ここ数年紙ログで1ページ/年では最初からあきらめモードです。Hi

◆JA0BJ:町のなかの1階屋上のGPアンテナでは、CWでなければ山越えの交信は出来ません。そんなネガティブな理由からCWを愛用しています。

◆JA0AAQ:目下CW運用はQRT状態ですが、写真撮影に楽しさを見つけて夢中です。太陽黒点と共にCWにカムバックの予定です。

◆JA0EMS:仕事がQRLで、なかなか無線を楽しむ時間がとれません。

◆JE0JAO:WAKU 祭りも一段落、それなりに楽しみました。

◆JJ00DQ:最近航空無線は結構多用しておりますが、アマチュアの方はNYPだけになっております。EMEへのあこがれはまだ無くしていませんが。

全国CW同好会(KCJ)のしおり

入会を希望される方へ

全国CW同好会は、CW QSOを通じてお互いの友情を温めあい、同時にCW通信技術を高めるために努力しています。ハムの中で、もっともハムらしいハムと自負している人たちの集まりで、国内におよそ150人の会員、海外に7名の友好会員がいます。

会の略称[KCJ]のフルネームは[Keymen's Club of Japan]と称します。Keyとは、私たちとは切っても切れない縁の深い電鍵であり、また“重要人物”という意味が含まれています。メンバーの一人ひとりが、良きCWマンであり、同時にアマチュア無線界のKeystoneを守る人物でありたいと願いをこめて命名されました。

メンバーには、それぞれの地域でアマチュア無線の指導的な立場にある人も多くいますが、本会は、ビギナーにCWを指導するというよりも、むしろ自分でCWの面白さを見つけ、長くCWを楽しみたいと考える人たちが集まった会です。

CWは通信の原点であり、電波が存在すれば、それを断続するだけで通信ができ、もっとも単純でありながら、もっとも確実な通信方法です。電波が飛んで行く、通信ができるというアマチュア無線の根底にある素朴な興味を満足させてくれます。

ご承知のとおり、CWは電話にくらべると通信の能率は悪く、意思の伝達に苦勞することがあることも事実です。その欠点をカバーするために、簡潔な通信文を工夫してつづります。その通信文を解読し、相手が伝えようとしている内容を読みとり、符号に乗って伝わってくる相手の気持ちに触れることができます。これは推理や想像を楽しむ、ひとつの知的なゲームとしての面白さがあり、これこそ他の通信方法とは異なったCW通信の醍醐味だと言われている。

アマチュア無線に興味をもつ人は、いつの時代にも少なくありません。日本では周知のように、世界に先駆けてノーコードライセンスを導入したことにより、アマチュア無線への入門の道が広がった反面、CWを知らないハムも多くなっていま

す。いつときの興味でアマチュア無線を始めた、その中で CW も一つのモードとして関心を持ったりというだけでなく、通信の原点でもあるこの CW をいつまでも大好きで、生涯、腕を磨くテーマのひとつにしようという考えの方々を本会は歓迎しています。

このように本会は、CW が好きな人の集まりですが、アマチュア無線のさまざまな楽しみ方を否定するものではありません。いまや多くの電波型式が許可されているアマチュア無線界ですから、いろいろな分野にパイオニア精神を発揮するのも結構です。しかし、結局は CW の面白さを認識された人たちが、いつかはここに集まってくるのではないかと考えています。

全国CW同好会の活動について

CW をより身近に、そしてエキサイティングなものとするために、ハムライフの中で CW QSO のいろいろな楽しみかたについて、多少のヒントを提供しています。また、本会が広く CW 通信の発展にどのように貢献しているかを、具体的な事業を通して理解を深めていただきたいと考えています。

そのいくつかの事業を紹介します。

(1) アワード「KCJA」の発行

本会はユニークなアワード[KCJA]を発行しています。ネーミングは”Keymen's Century of Japan”で、また、KCJ Award とも読めます。アワードルールは、単純明快で、マルチバンドで、のべ100都道府県とCWでQSOするというものです。

また、KCJ 発足 25 周年を契機に KCJA ルールを一部改定しました。KCJA 申請にあたって、QSL カードを提出していただくことを原則にしましたが、これまでの実績から QSL カードの正確な表記について、認識が十分に浸透したと考えますので、QSL カードの提出義務を原則的に廃止し自己宣誓方式に改めました。また、上位への挑戦意欲を持続していただくため、400 点以上の申請は 25 点刻み、600 点以上の申請は 10 点刻みに変更し、併せてステッカー制度を採用しました。

(2) CWコンテストの主催

毎年 8 月に、本会主催で[KCJ コンテスト]を行っています。このコンテストの目的は、互いに確実な CW 通信を通して CW 送受信技術の向上を図り、かつ CW 愛好者の親睦を深め、併せてコンテストにおけるフェアプレー精神を高揚することにあります。

本会主催のコンテストの大きな特徴は、提出されたログを全数コンピュータで審査し、双方のログの記載内容が一致した場合に限って双方に得

点を与えるという規則にあります。ログを提出しない局との QSO は得点になりません。ログを提出したからといっても、記載・転記ミスなどがあると、審査の段階で双方のログが一致せず、自分も得点できないし、相手にも得点が与えられないこととなります。得点を競う競技においてのフェアプレーとは、ルールにのっとって参加し自分も得点し、かつ相手にも迷惑をかけないことです。

ログ審査プログラムは、会員の間で議論を重ね、改善が行われた結晶です。また、近年は E-mail や FD でのログ提出を推進するなど、参加する人が自分のログをきちんとチェックして整理してあれば、合理的で公平な審査ができるようになっていきます。

毎年 2 月に、本会主催で[KCJ トップバンドコンテスト]を行っています。1.9MHz 帯の狭いバンド幅でもコンテスト実施が可能な独特のルールで、KCJ トップバンドコンテストを行ってきましたが、2000 年に 1.8MHz 帯の開放があり、バンド幅は一挙に倍増しました。このため、KCJ トップバンドコンテストルールを大幅に見直し、1.8 と 1.9MHz の両周波数帯を使用できることとし、この機会に DX 局の参加を可能にしました。

アワードもコンテストも、一種のスポーツであり遊びにすぎないことですが、そこにも守るべきルールがあります。誰もが容易に電波を出せる時代になっても、アマチュア無線の楽しさとは、規律とけじめを前提にしてこそ意味がある、と本会は考えています。

(3) 都道府県・北海道支庁の略称の制定

私たちは、CW 通信で省略されたつづり文字から、もとの語が何であったかを推察し、その意味を理解するというのを、日常よく行っています。短い略称から、都道府県名などが容易に推察できるように、既成のコードとしてあった漁船の船籍都道府県名を示す符号をもとに、多少手を加えて KCJ 独自のものを制定しました。このコードは、KCJ が主催するコンテストで交換するナンバーに使っています。CW 通信にセンスあふれる略語として、日常の QSO で QTH の表示にどんどん使って欲しいと思っています。また、他のコンテストのナンバーなどにも利用していただけることを願っています。

(4) KCJホームページの運用

会員向けの会報「ザ・キー」の発行以外に、KCJ 活動内容を内外に知らせるため、KCJ ホームページ(<http://www.kcj-cw.com>)を作成しています。会の活動に興味と関心をお持ちの方は、一度アクセスされますようお勧めします。

(5) その他の活動

通信の原点ということは、アマチュア無線発祥のころの手づくりの通信という意味があって、今日でも CW は自作の入る余地のある分野です。本会会員の多くは、自分の無線機を何か自作した経験があり、自作するアマチュア精神は、QRP 機に凝縮されています。その記録にいどむ人もあれば、コンテストやアワードハントに巧みな人もいます。また、各バンドでヌシのように活躍している人、移動運用に熱心な人、DX をバリバリ稼いでいる人もいれば、もっぱら外国の電波の旅情を楽しんでいる人もいます。コンピュータと CW の接点を求めて、独自の活動をしている人もいます。地域で CW 通信の指導に熱心な人もいます。

そんなエキスパートたちを、根底で結んでいるのが CW です。物質文明全盛の時代は、アマチュア無線もその例外ではなく、画像通信、衛星通信さえも手軽にメーカー製の機械を使って行われるようになりました。電波は飛んであたりまえ、聞こえて当然という風潮が生まれ、この趣味の存在する根底がゆらぎ始めたのではないかとさえ思われます。しかし、自分で努力して符号を覚え、自分でキーを操作してはじめて可能になる CW 通信には、何か自分でやらなければならないという、古き良き時代のアマチュア精神が温存されているように思います。

CW はこの先、アマチュア無線の世界にしか残らないことになりましたが、自分の出した電波がはるばる飛んで行くことに対する素朴な興味と驚きを感じる感性豊かな人が絶えない限り、アマチュア無線の CW は存在し続けることでしょう。

CW 同好会が、将来ただの[CW 保存会]になってしまうことを嘆く声も聞かれます。しかし、それが死んで博物館に置かれるような保存ではなく、その電波が原始的ではあるが、確実な通信の手段として世界を飛びまわっている[動態保存]であれば、これは愉快的なことではないでしょうか。そのためにも、本会は、“下手の横好き”の会ではなく、“好きこそものの上手”の会でなくてはならないと思っています。

とを強調しています。入会して、何か特別な利益があるという会ではありません。どの会員もボランティア精神を基に、会の運営に協力することが前提とされています。

本会会員は、電波法規の遵守はもちろん、アマチュア無線のよき習慣を不文律として守ることをモットーにしています。また、会員になられてからは、会の主催するコンテストに参加されたときは、主催者側の一員として必ずログを提出することを心がけていただきます。

長い生涯のうちには、いろいろな事情で好きなアマチュア無線から遠ざからなくてはならないこともあるでしょう。そのようにアクティビティの落ちた時期にあってもアマチュア無線と CW には関心をもち続け、本会会員であることに意義を感じ引き続き在籍していただきたいと思えます。

そうした事柄すべてを含めてライフホビーというものだとは私たちは考えており、このような考えにご賛同いただける方に入会していただけることを心から望んでいます。

入会申込方法

この会報に添付されている入会申込書に必要な事項を記入してKCJ会長に提出してください。

送付先： 〒004-0041

札幌市厚別区大谷地東 3-2-1-1013

JA8AJE 笠原 勝

(E-mail: kcj-p(a)kcj-cw.com)

役員会で審議され入会承認書が届いたら、所定の会費を納めて、貴局もKCJの一員となります。

(完)

全国CW同好会への入会について

入会資格は、**個人局で、CW 免許を保有していること**が必要条件です。

「KCJ 入会申込書」に、ご自身のアマチュア無線活動歴や、アマチュア無線や CW についてのお考えと自己紹介をお書きください。入会申込書が届いたとき、会から若干の質問をさせていただくかもしれませんがご理解ください。

会員はハムである以前に、よき社会人であるこ